

目次

1. 巻頭随筆：科学研究費への応募促進について田村義保... 1	4. 会員からの投稿記事
2. 2008年度統計関連学会連合大会のプログラム企画 について(第三報)清水邦夫... 4	4.1 UC Berkeley統計学科の教育と研究張 南... 9
2.1 会場について 4	4.2 大学評価と統計学加藤泰久...10
2.2 参加申し込みについて 4	5. 2008・2009年度評議員選挙結果12
2.3 大会プログラムについて 5	6. 研究部会新設公募12
2.4 企画セッション一覧 5	7. 理事会議事録12
2.5 コンペティション 5	8. JJSS欧文誌・赤池記念特集号の発行について谷口正信...14
2.6 チュートリアルセッション 5	9. 研究集会案内15
2.7 市民講演会のご案内 6	10. 公募情報16
2.8 おわりに 7	11. 新刊紹介17
3. シリーズ：統計学の現状と今後	12. 学会事務局から18
3.1 統計学との馴れ初め三根真理子... 7	13. 投稿のお願い18

会員の皆様へのお知らせ

2008年度統計関連学会連合大会のお知らせが同封されています。

1. 巻頭随筆：科学研究費への応募促進について

田村 義保 (統計数理研究所)

国立大学、大学共同利用機関が法人化されてから、5年目を迎えました。多くの大学、研究所で外部資金の獲得を中期計画や年度計画に入れているところも多いと思います。会員の皆様が属している組織では、目標を達成できたでしょうか？法人化元年と言われる、平成16年度の科研費予算

が1,830億円であり、平成19年度の予算が1,913億円であることより、総額は1.045倍になっています(平成20年度の予算額は1,932億円と公表されていますが、応募件数等のデータがないために、19年度と比較しました)。新規応募件数はそれぞれの年度で、85,000件、99,000件となっているの

で、新規応募件数の伸びは、1.165倍です。新規採択件数はそれぞれの年度で、21,000件、24,000件なので、1.143倍となっています。このため、採択率は24.8%から24.3%に若干、減少しています。応募件数、採択件数、採択率については、学術振興会ホームページの応募・採択の状況を参考にしています。件数を1,000単位に丸めているのだと思うのですが、1の位まで公表してもよいように思います。平成10年度から19年度までの採択率は24%前後でほぼ一定であることを述べておきます。

すぐ上に述べたように、新規の科研費の採択率は24%です。それでは、統計科学の採択率はどうかでしょうか？表1は、科研費の分科において情報学と数学の細目番号別の平成19年度の応募状況と採択状況です。統計科学の採択率は25.3%ですので、ほぼ平均と言ったところだと思います。数学においては、数学一般を除いては、採択率は非常に高い値になっています。このような状況を横目で見てみると、統計学の採択率は低いと考えてしまうのですが、平均24.3%をわずかながら超えており、普通の採択率と考えてよいと思います。一つだけ喜ばしいことは、基盤研究(A)と(B)では、一般他に海外という種目がありますが、情報学と数学を合わせて、6件の応募があったようですが、採択されたのは統計科学の1件だけでした。

では、なぜ、統計学会の関係者が、統計科学の採択状況が悪いと感じてしまうのでしょうか？細目ごとにはほぼ採択割合がほぼ一定になるようにJSPSが審査しているように思える以上、単に、応募件数が少ないために、採択数がそれほど多くはならないと思います。回りの知り合いに聞いても、4人に1人しか採択されない以上、採択されていないように思ってしまう状況になっている

と、私は考えています。その根拠として、表2を示します。ここ5年間の情報学の細目別の応募件数の変遷です。平成15年度に比べて平成19年度は、「メディア情報学・データベース」は1.35倍、「知覚情報処理・知能ロボティクス」は1.39倍、「生体生命情報学」は1.41倍になっています。統計科学は1.13倍です。応募件数順では平成15年度は6番目であったのが、平成19年度は8番目になっています。確かに、統計科学よりも伸び率が悪い細目もありますが、統計科学の状況も決してよいとは思えません。応募件数が増えている細目を研究する研究者が急増したとは思えませんので、各研究者が、自分が関係する分野の規模を拡大させるために、科研費に応募しているものと考えます。2年前の会報にも書きましたが、採択率の偏りがあまりない以上、採択数を増やすためには、応募件数を増やすしかありません。日本で統計学の研究をしていて、科研費応募資格がある限り、科研費に応募するのは義務であると考えていただければ幸いです。応募が増えることにより、採択数も増え、分野の活力も増して行きます。

最後になりましたが、私は、統計学会全体で研究していく必要があるテーマを、会員から募り、研究計画や分担者を提案者といっしょに考えることを任務として与えられた理事であります。幸いにも、平成17年度公募に対しては、統計教育関係の計画で応募（代表者：渡辺美智子東洋大教授）し、採択されています。その後は、はかばかしい成果はありません。平成21年度公募に対して、統計学会としてテーマを考えて応募していきたいと考えています。会員の皆様からの積極的な提案をお待ちしております。また、この学会としてのテーマではなく、個々の研究テーマでの積極的な応募をお願いします。統計科学の細目で300件を超えるようになることを切望しています。

表1 平成19年度情報学，数学の細目別採択率

分科	細目名	細目番号	応募／採択	基盤研究合計	萌芽研究	若手研究合計	合計	採択率(%)
情報学	情報学基礎	1001	応募	82	16	63	161	29.2
			採択	23	2	22	47	
	ソフトウェア	1002	応募	93	16	71	180	27.2
			採択	24	2	23	49	
	計算機システム・ネットワーク	1003	応募	222	66	177	465	23.9
			採択	54	8	49	111	
	メディア情報学・データベース	1004	応募	261	111	217	589	21.9
			採択	61	14	54	129	
	知能情報学	1005	応募	171	50	123	344	24.4
			採択	45	7	32	84	
	知覚情報処理・知能ロボティクス	1006	応募	250	93	208	551	21.2
			採択	55	12	50	117	
感性情報学・ソフトコンピューティング	1007	応募	178	62	117	357	23.2	
		採択	41	8	34	83		
情報図書館学・人文社会情報学	1008	応募	109	38	52	199	22.1	
		採択	26	5	13	44		
認知科学	1009	応募	82	48	65	195	22.1	
		採択	18	6	19	43		
統計科学	1010	応募	105	33	48	186	25.3	
		採択	29	4	14	47		
生体生命情報学	1011	応募	69	42	68	179	22.3	
		採択	17	5	18	40		
数 学	代数学	4101	応募	237	35	68	340	31.2
			採択	76	5	25	106	
	幾何学	4102	応募	192	40	57	289	31.8
			採択	59	8	25	92	
	数学一般(含確率論・統計数学)	4103	応募	211	56	69	336	26.5
			採択	59	9	21	89	
	基礎解析学	4104	応募	207	31	61	299	28.8
			採択	61	5	20	86	
	大域解析学	4105	応募	107	20	52	179	32.4
			採択	35	3	20	58	

表2 平成19年度情報学，数学の細目別採択率

細目名	細目番号	H15	H16	H17	H18	H19
情報学基礎	1001	156	132	158	151	161
ソフトウェア	1002	151	147	162	181	180
計算機システム・ネットワーク	1003	364	349	427	435	465
メディア情報学・データベース	1004	435	439	518	556	589
知能情報学	1005	253	280	326	322	344
知覚情報処理・知能ロボティクス	1006	396	411	531	516	551
感性情報学・ソフトコンピューティング	1007	388	325	354	371	357
情報図書館学・人文社会情報学	1008	147	144	164	174	199
認知科学	1009	150	119	136	193	195
統計科学	1010	165	164	187	185	186
生体生命情報学	1011	127	124	123	165	179

2. 2008年度統計関連学会連合大会の プログラム企画について（第三報）

プログラム委員会委員長 清水 邦夫（慶応義塾大学）

プログラム企画について第一報（2007年12月13日）、第二報（2008年4月5日）の公開に続き、「第三報」をお届けします。本報が本大会に関するプログラム委員会からの最後のご案内となります。大会の詳細につきましては、プログラム・実行・運営の各委員会によって準備された原稿とともにWeb委員がWebページに見易く配置をしていますので、2008年度統計関連学会連合大会のトップページ

<http://www.jfssa.jp/taikai/>

から「大会詳細」や「お知らせ」等に進み、必要な情報を手に入れて下さい。本報では、プログラム企画について簡潔にまとめを行い、皆様の便宜をはかりたいと思います。

2.1 会場について

大会（9月7日から10日；7日はチュートリアルセッションと市民講演会のみ）は慶応義塾大学・理工学部矢上キャンパス（日吉駅から徒歩約15分）で開催されます。懇親会（9月9日）は、矢上ではなく、日吉キャンパス内のGreen's Marche（日吉駅から徒歩約3分）で行われます。キャンパスへの行き方の詳細は、上記トップページから「会場」へ進むと見ることができます。両キャンパスとも、駐車スペースの関係上、自家用車でのご来場はお控え下さい。矢上キャンパスへは日吉駅商店街側からタクシーを利用できます。「慶応大学理工学部へ」と運転手に言って下さい。なお、両キャンパスともキャンパス内禁煙ですが、若干の喫煙可能エリアがあります。

大会の会場はAからGの7会場からなっています。その教室番号等は、つぎの通りです。

- A：マルチメディアルーム
（創想館（14棟）東棟地下2階）、
- B：12棟1階108教室、
- C：12棟1階109教室、
- D：12棟1階110教室、
- E：12棟2階211教室、
- F：創想館（14棟）西棟2階201教室、
- G：創想館（14棟）西棟2階202教室。

2.2 参加申し込みについて

チュートリアルセッションの申し込み（2008年1月31日締切り）、企画セッションの申し込み（2008年2月20日締切り）、講演（一般・企画セッション・コンペティション）の申し込み（2008年5月12日から6月3日）、報告集用原稿の提出（2008年6月16日から7月7日）を経て、大会参加申し込み期間は

2008年7月17日（木）9時から

8月21日（木）17時

となっています。事前参加受付は上記トップページから「申込」に進んで手続きできます。また、大会参加費の詳細を知るには、「お知らせ」、運営委員会からのお知らせ「参加費」へとお進み下さい。会員（共催、協賛の6学会の会員）・学生（会員・非会員を問わず）・学生以外の非会員別、事前受付・当日受付別で大会参加費が異なりますのでご注意下さい。当日受付の場合、大会参加費（講演報告集、CD-ROM代を含む）は、会員・学生6,000円、学生以外の非会員12,000円です。また、懇親会参加費も一般（会員・非会員を問わず）・学生別、事前受付・当日受付別で異なります。当日受付の場合、懇親会参加費は、一般5,000円、学生3,000円です。なお、企画セッションはプロ

グラム委員会の承認の下に行われ、その運営は各セッションのオーガナイザーに一任されています。企画セッションの講演は依頼（招待）講演であり、会員か否かを問わず、すべての講演者および共著者（共同研究者）は招待者です。

2.3 大会プログラムについて

プログラムおよび大会案内はWeb上で公開（参加申込開始以前に公開予定）されるとともに、各学会選出のプログラム委員を通して各学会に通知されます。プログラム冊子は作成致しません。Webページには、html版およびpdf版を用意します。当然のことながら、プログラムは講演報告集にも掲載されます。なお、講演者および共著者（共同研究者）の所属は講演申し込み時点のものです。

2.4 企画セッション一覧

- 1) センサス統計と統計レジスター（9月9日（火）9：30-11：30, 13：00-15：00 E会場）
- 2) 統計科学とマーケティング（9月8日（月）16：00-18：30 D会場）
- 3) 政府統計データの二次利用の課題（9月9日（火）15：30-17：30 E会場）
- 4) 初等中等及び高等教育における統計教育の現状と展望—新学習指導要領を踏まえた体系的な教育システムの構築を目指して—（9月9日（火）9：30-11：30 C会場）
- 5) Webベースの統計環境と高度マイニング技法（9月8日（月）16：00-18：00 C会場）
- 6) 線形代数に基づく行動計量学研究の展開（9月8日（月）13：30-15：30 D会場）
- 7) 日本計量生物学会シンポジウム：医薬品の有効性・安全性評価のためのカウントデータの統計解析（9月8日（月）13：30-15：30 A会場）
- 8) 統計メタウェアの開発（9月8日（月）10：00-12：00 C会場）

- 9) 統計科学とゲノム科学の共進化（9月9日（火）13：00-15：00 A会場）
- 10) 日本計量生物学会奨励賞受賞者講演（9月8日（月）16：00-18：00 A会場）
- 11) 日本統計学会各賞受賞者講演（9月9日（火）13：00-15：00 C会場）
- 12) 応用統計学会学会賞受賞者講演（9月9日（火）15：30-17：30 C会場）

2.5 コンペティション

今年度も、研究活動を開始して日の浅い会員のより質の高い研究発表の奨励を目的としてコンペティションを実施します。

評価基準：研究内容のみならず、発表者各自が十分に工夫をしていかにうまく内容を伝えられたか、質問に的確に答えられたかといった発表の仕方も含め、全体として素晴らしいプレゼンテーションになっているかどうかを評価の対象とします。

審査方法：大会におけるコンペティション講演の審査は、当日の口頭発表に対しての数名の審査員とコンペティション講演セッションの出席者の一般審査との総合評価で行います。セッションの参加者すべてに投票資格がありますので、本企画の趣旨をご理解の上、奮ってご投票ください。A、B、Cの3段階（A：受賞に値する、B：受賞としてもよい、C：受賞に値しない）で各報告者を評価していただきます。ただし、講演者ならびに共著者はその講演への投票は出来ません。審査は記名投票で行い、無記名投票は無効です。投票結果に基づき、プログラム委員会で選考します。

最優秀報告者1名、優秀報告者（原則として）3名を選考し、大会中（懇親会場において懇親会の直前を予定）の表彰式にて受賞者を発表して表彰しますので、ぜひこちらにもご出席ください。

2.6 チュートリアルセッション

日 時：2008年9月7日（日）13：00-17：30

会場：慶應義塾大学矢上キャンパス11棟1階
31教室
受付開始時間と場所：12：30より，上記教室前スペース

テーマ1：メタアナリシスの方法と実践

講演時間：13：00－15：30

講師：手良向 聡（京都大学）

テーマ2：構造方程式モデリング－3次までの積率構造の理論と応用－

講演時間：15：30－17：30

講師：豊田 秀樹・岩間 徳兼・竹下 恵・久保 沙織（早稲田大学）

事前参加受付は，2008年度統計関連学会連合大会の上記トップページから「申込」に進んでWeb上で手続きができます（7月17日（木）9時～8月21日（木）17時）．あらかじめ参加費を納めていただく場合は，割引が受けられます．学生には特に大幅な割引があります．当日参加も受け付けます．当日受付の場合，参加費（資料代含む）は，会員（共催，協賛の6学会の会員）3,000円，学生（会員・非会員を問わず）3,000円，学生以外の非会員6,000円です．テーマは2つありますが，参加されるテーマ数に関わらず，料金は同じです．

2.7 市民講演会のご案内

市民講演会は，下記のテーマについて，3名の先生方の講演と展示・体験ブースの開設で構成いたします．参加費は無料です．

日時：2008年9月7日（日） 12：30－17：00

場所：慶應義塾大学矢上キャンパス創想館
（14棟）地下2階マルチメディアルーム

テーマ：「情報社会と統計教育～私たちの暮らしを支える身近な統計～」

講演プログラム：13：30～16：00

●川崎 茂（総務省統計局長）

『私たちの暮らしと統計』

－統計は国民の共有財産－

政府が作成し公表する様々な統計は，国民の生活や社会の実態を明らかにするものであり，国や地方公共団体の政策の決定や評価に活用されています．これらの統計には，生活に密着した親しみやすい統計も数多くあります．この講演では，暮らしに身近な統計をいくつかご紹介して，皆様に統計に親しんでいただくとともに，統計の見方・使い方のヒントなどをお話したいと思います．

●長尾 篤志（文部科学省初等中等教育局教育

課程課教科調査官）

『新学習指導要領で重視された統計活用能力』

－算数・数学科での今回の改訂の考え方－

種々の調査によると，算数・数学科では，「数学的な見方や考え方を生かして問題を解決することや自分の考えを数学的に表現すること」，「身に付けた知識・技能を実生活や学習等に活用すること」などに課題が見られます．このような課題を踏まえ，今年1月中央教育審議会から学習指導要領の改善に関わる答申がなされ，この答申を受け3月には小中学校の学習指導要領が改訂されました．現在，高等学校の学習指導要領も，改訂に向けた作業が行われています．この講演では，新学習指導要領の改訂の考え方や今回の改訂において重視された統計活用能力について説明します．

●吉村 功（東京理科大学教授）

『統計家が考える数理リテラシー－「豊かに生きるための智」プロジェクトでの議論より－』

「21世紀の科学技術リテラシー像～豊かに生きるための智～」は，日本人成人一般に必要な科学技術の素養を検討したプロジェクトで，日本学会会議と国立教育政策研究所が平成18・19年度科学技術振興調整費を用いて行ったものです．プロジェクトでは，数理科学，生物科学等の7部会がそれぞれの関係部分での検討を行いました，この

講演では、数理科学の中の統計リテラシーに焦点を当てて、何が21世紀の今に必要な素養であるかを紹介します。

展示・体験ブース：12：30～17：00

- “ようこそ、統計の世界へ”（協力：総務省統計局，同政策統括官（統計基準担当））
- BB弾によるサンプリング実験，トースター&スタツツ（協力：統計数理研究所）
- シミュレーション統計グラフ体験：マルチメディア統計百科事典（協力：日本統計協会）
- 統計グラフコンクール優秀ポスターの紹介（協力：全国統計協会連合会）
- 使ってみよう国勢調査G-Censusシステム（協力：統計情報研究開発センター）
- 海外での統計教育事情～センサス@スクールの紹介（協力：日本統計学会統計教育委員会，統計教育分科会）

* 市民講演会は，文部科学省補助事業として，

主催：日本統計学会

共催：統計関連学会連合，数学教育学会，統計数理研究所，全国統計教育研究協議会，日本統計協会，全国統計協会連合会，統計情報研究開発センター，東京理科大学数学教育研究所

後援：総務省，日本数学教育学会，横浜市

で，実施いたします。

2.8 おわりに

大会では，9月8日10時から9月10日12時まで，現時点において企画セッション53件，コンペティション21件，一般159件の合計233件の学術講演（+企画セッション日本統計学会各賞受賞者講演）を見込んでいます。これら以外に統計分析・データ・教育ソフトウェアセッションにおける9件の講演が予定されています。多くの方々の講演申し込みにより充実した大会となることが期待されます。

各学会選出および委員長依頼のプログラム委員各位（お名前は，上記トップページから直接に「組織」へ，もしくは「お知らせ」，実行委員会からのお知らせ「委員会メンバー」へ進むと見られます）には，各学会への連絡，企画・コンペティション・チュートリアルセッション・市民講演会の企画と原稿執筆，プログラム作成，講演報告集作成のための準備等々，さまざまな仕事をしていただきました。大会のプログラムに関する準備が現段階までできましたのは偏に委員の皆様のご協力の賜物です。この場をお借りしまして厚く御礼を申し上げます。それでは，大会会場の慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスにて参加の皆様にお目にかかれますことを楽しみにしております。

3. シリーズ：統計学の現状と今後

3.1 統計学との馴れ初め

三根真理子（長崎大学）

私と統計学の馴れ初めは思い起こせば30数年前になります。就職を探していた私にチャンスが訪れました。なにやらプログラマーを募集しているらしく，教育学部の学務に数学出身者を募集してきたのです。私は神奈川県で2年間，小学校教諭として勤務し，長崎へもどってきて教育学部でア

ルバイトをしておりました。数学出身ではありませんでしたが，仕事につきたい一心で応募しました。当時，コンピュータ業界はまだ珍しい分野でした。好奇心旺盛な私にとってプログラミングに興味がありました。とはいえ度素人の私が幸いにも採用されたのです。なにせパンチカードの時代です。最近の方はそれなに？ ってご存知ないでしょう。データもプログラムもガチャガチャいう穿孔機なるものでカードに孔をあけるのです。ま

だ教室にはコンピュータもなく、プログラミングの講習会を受けつつ、テキストをみつつ、「フォートラン」の習得に励んでおりました。今ほど時代も忙しくなく、よき時代でした。そのうち、上司から、仕事はプログラミングだけじゃないよと言われ、なんと統計学を学ぶはめになってしまいました。スネデカーコ克蘭の「統計学的方法」が最初の教科書でした。ひえー！ そんなこと聞いてないよー。数学苦手の私が……。と騒いでもだれも知らぬ顔です。しぶしぶ本を読むことになりました。輪読です。証明？ はあ、頭痛が。何を勉強したのでしょうか？ 若かりし頃のノートを開いてみました。1冊目のノートには確率、期待値、標準偏差、共分散、標本抽出、点推定、区間推定、乱数表、頻度分布と図による表示。2冊目には任意化された2群の比較、符号検定、ノンパラメトリック、回帰、3冊目には2項分布からの抽出、Zによる検定、ポアソン分布、分散分析。おやおや、今講義している内容ではありませんか。我ながらびっくりです。2章の終わりで囲みメモを発見！ おそらく上司のお言葉でありましょう。「1. どのような時にどのようなものを使うか。もとの分布が何だったら何を使うかということを知る。何を知りたいのか。2. 間違えずに使うために理論を知っておく。」なるほど、現在の統計コンサルタントにそれらしきことをコメントしているような気がします。それでも臨床の先生から電話がかかるとドキッとします。私が普段利用している統計手法は限られています。被爆者の健康調査の分析、これはクロス集計や平均値の検定、またコックス回帰モデルを用いた生存率解析、ロジスティック回帰などです。相談される内容は、もちろん違う話が多く、慌てて本を開くはめになります。こうして日々研鑽です。少しずつ賢くなってきています。私にとってコンサルタントは相手の相談にのるのではなく、自分自身の勉強です。自分でわかったつもりでも人に説明することの難しさ、教えることの難しさを感じています。結局わかったつもりなのだと気づきます。心底わかっ

てないのです。講義においても同じことが言えます。

恥ずかしながら心理学では統計学が必須であり、むしろそこからでてきたものもあるということを実職について、かなりたってから知りました。あとから聞いた話ですが、私が心理学出身ということで調査に役立つだろうという理由で採用されたいです。期待には応えていませんが被爆者の健康調査やデータ解析に携わることになりました。私の経験から、大学は学び方を教えるところ、ほんとに身に付けるのは職場にでてからと考えています。データ解析の実習を担当する際、学生から楽しそうだねと言われます。そうそう、楽しく学び楽しく働くが私のポリシー！ とはいえ、いつも楽しいはずもなく、この笑顔の奥に苦しみや辛さを隠しているのだよーと言いたい所ですが。偶然に就職した職場で勉強させていただき、講義をする立場にたたせていただき、この幸せに感謝しています。これぞ統計でしょうか？ 今後も学生に対し、いかに統計を学ばせるかを、学生とともに学んで行きたいと思います。何かよい結果が得られたら、ここに報告いたしましょう。

坂本先生に会報の原稿依頼を受けたことで自分自身の統計知識を再度見直す機会を得ることができました。講義に望むためには初心にかえるという思いを大切にしながら明日の講義準備をしようと思います。

どなたか書いておられましたが、「統計学発展のためには多くの専門家を育成し、統計コンサルタントから統計研究まで役割分担ができる体制作りが必要では」と。このご意見に全く同意いたします。日本は統計に限らず、仕事の役割分担が下手です。一人でなにかもやるのですから、限界があり、広く浅くなってしまいます。確かに全体を眺める人も必要です。専門家ばかりだと視野が狭くなるでしょう。これが統計コーディネータとも言うべき立場でしょうか。いつの日かわが国にもそんな時代がくることを望みつつ、努力していきたいと思っています。

4. 会員からの投稿記事

4.1 UC Berkeley統計学科の教育と研究

張 南 (広島修道大学)

2007年9月から2008年3月まで、在外研修でUniversity of California, Berkeley (以下、UCBと略記する)に滞在した。UCBは1866年に創設され、大学のキャンパスは山と太平洋の間に挟まれていて、非常に美しい自然環境に恵まれている。現在の学生数は2.1万人ぐらいで、院生の数は9000人を超えている。UCBはノーベル賞受賞者を輩出した大学であり、世界的研究センターとなっている。

UCBの統計学科 (Department of Statistics) は70年間の歴史があり、世界でも学術の影響を持つ統計学研究機関の1つで、2008年の全米研究評議会の統計学科に対する外部評価の結果によれば、UCBの統計学科がスタンフォードと並び全米のランキングの1位であった。2002年に同学科は全米科学財団 (The National Science Foundation) から研究と教育の両方に資金を与えられた。主要な研究分野は数理統計学、確率論、コンピュータサイエンス、生物統計学、人口統計学、及び金融統計などである。コースとして、B.A.とM.A.及びPh.Dが設けられている。

統計学科研究科のメンバー構成は、教員が50数名、大学院生が90数名、そして、私のようなVisiting Scholarという身分の短期滞在者が20数名となっている。学科内の人間関係が比較的親しみ易く、一つのファミリーのような気がした。私のような短期滞行者にも研究室を提供してくれた。多分米国の西海岸という特有の伝統と習慣に関係があるかもしれないが、6年前に一年間ほど滞在した米国東海岸にあるColumbia Universityで感じられた雰囲気と違い、UCBでネクタイを締めて背広を着る教員の姿がめったに見られなかった。Tシャツとショート・パンツを着たままで講義をしたり、研究会に出席したりする教員の姿をみる

と、かえって自然で親しみを感じた。

授業を聴講して印象深かったのは次の2点である。一つは、授業中での教員と学生の活発な議論である。学生のレベルが高いという理由もあるが、90分の授業で3分の1の時間 (場合によっては時間の半分) が学生からの質問と教員の回答に使われる場合が少なくなかった。もう一つは授業中の自由な雰囲気である。世界的に著名な教授でも授業中では学生との関係は比較的平等も感じて、いつも笑いながら学生からの遠慮ない質問に丁寧に回答していた。また、時間を効率的に利用するために昼食の間 (例えば12:30-14:00) に授業が設けられている場合もあるが、そのときには、学生の教室での食事が許されるが、私語は見られなかった。

優秀な学者を育てるために、大学院に在籍する50名あまりのPh.Dの院生が全員奨学金を授与されるなど、奨学金の体制がしっかり整備されている (学費の全額免除と毎年2.5万ドルの生活費の支給)。その代わりに、院生に研究会での発表をさせ、教職応募者による研究発表会と模擬講義に参加させるほか、国内学会と国際学会での発表や影響力のある学術雑誌に論文公表などをすることを支援している。こうした措置を取った結果として、院生の学力水準が全米に認められ、全米の名門大学や研究機関などに就職しやすい状況となっている。

統計学科研究科は毎週月曜日にその一週間の研究会の予定をネットに流し、そして月曜から木曜まで毎日各種の研究会が開催されるが、少ない場合は、一日に1回、多い場合は、一日に3回開催されるときもある。同研究科の教員、院生はもちろんのこと、他大学や企業から招待しての学術講演も多く、数理統計系のテーマが多いが、経済統計学や金融統計学の研究報告もしばしば行われる。また年2回、スタンフォード大学の統計学科との合同セミナーも開催され、互いの大学教員や

院生が交流を深めている。いずれの研究会も多数の参加者が集り、遠慮のない質問や激しい議論が行われ、その高度にアカデミックな雰囲気には感心させられた。なお、セミナーの講演者とその発表概要と時間割は学科のホームページからも閲覧ができる。このような運営方法が長年にわたり実行されていけば、世界一になるのは不思議ではないと思われる。

2007年10月、同統計学科のErich L. Lehmann教授の著作“Reminiscences of a Statistician – THE COMPANY I KEPT –”（『統計学者の追憶 – 私の持っていた仲間 –』がSpringerより出版された。著作中、1930年代から2000年まで同学科に勤めた21名の同僚の業績を取り上げ、統計学への貢献を述べている。研究会の後、著者による署名式が開催され、統計学分野の巨匠の業績を読みながら、統計学発展の歴史を感じた。

同統計学科は28の研究グループに分かれており、私が所属した研究グループには14人いた。世話人はBin Yu教授で、ISIでよく招待講演された学者である。研究グループの人員構成は、教員が5名で、博士課程の院生が9名である。地域の構成からみると、インドから2人、中国から3人、フィンランドから1人、ギリシャから1人、ドイツから1人、日本から行った私、その他は米国人で、週に1回研究会が開かれて、それぞれ自分の研究をその場で真剣に議論する。

私はUCBに滞在したとき、IMF統計部の途上国への技術援助のプロジェクトへの参加を求められ、Technical Assistance Expertとして4月下旬から2週間でIMF統計部の専門家と一緒にザンビアの中央銀行で通貨金融統計に関するミッションに取り組んだ。現地の統計担当者と一緒に仕事をしたとき、統計学者の一人として、統計学の重要性和役割を再び感じた。

全米の各大学には40以上の統計学科があるが、日本の大学には統計学科がまだ一つもないようである。確かに日本の統計データの質は世界一流と言えるが、生物統計や金融統計などの発展に従って、体系的な統計知識に対する需要はますます増

えており、市場の需給原理から見ても、近い将来に統計学科は日本の大学にも誕生するのではないかと期待している。

4.2 大学評価と統計学

加藤泰久（国際教養大学）

[大学評価時代の到来]

平成15年の学校教育法の改正により、国公私立を問わず全ての大学が7年に一度認証評価機関による評価を受けなければならないことになり、これが認証評価と呼ばれている。また、これとは別に国立大学は、国立大学法人法の規定により6年の中期計画を終了する毎に国立大学法人評価委員会の評価を受けることとされている。

国公私立大学の中で既に認証評価を受審した大学も多数に及び、国立大学法人評価は19年度までの暫定評価を20年度に行うこととなって、いよいよ我が国においても本格的大学評価時代が到来したとの感を深くしている。統計学を専攻している諸兄におかれても、自所属大学の自己評価書の作成に携わっている方や評価機関の評価者になっている方も多数おられることと思う。

この稿は、大学評価に係る制度や仕組みについて論じるものではなく、大学評価に関する諸情報は、文部科学省、大学評価・学位授与機構（以下「機構」という。）等の認証評価機関に譲ることにして、特に国立大学法人評価に焦点を当て大学評価に対し統計学が果しうる役割や関わり方について論点整理を試みようとするものである。

[国立大学法人評価]

国立大学法人評価において暫定評価を行うこととなったのは、次期中期計画期間に合わせ、各国立大学に対する運営費交付金の算定に反映するためであるとされている。その反映方法については検討されているではあるが、一切公表はされていない。法人化後、毎年度評価はもっぱら管理運営面のみ行われ、教育研究等は実施状況報告にとどまっていた。それらは自らが策定した中期目標・中期計画・年度計画に対する達成度報告のみ

である。しかるに、暫定評価においては、当初はなかったあるいは明確に知らせてもらえなかった教育研究に関する水準判定が加わることとなった。

言葉の定義を取って厳密に行わないで言うのであれば、達成度評価は絶対評価、水準判定は相対評価ということになると思われる。この評価方法の変化は、分析・解釈の仕方によっては各大学の教育研究の今後の動向や運営費交付金の算定に大きな影響を与えることになる。特に各大学が提出することになる学部・研究科等の教育研究現況報告書は、その大学の教育研究の実績と現状をほぼ写し出す貴重なデータとなる。

[大学情報整理の重要性]

大学の諸活動は、教育研究のみならず、管理運営、社会貢献、国際交流等多岐にわたるばかりでなく、それが日々間断なく行われることであり、まして数年間の活動となるとそれに関する情報は膨大なものとなる。しかし、新聞報道等によって国民にもたらされる情報は、突出した事件やトピックスなど部分的、断片的なものである。国民が大学に関し真に知りたい情報は、どのような教育研究が行われ、そのアウトプットがいかなるものであるか、税金が結果としてどのように活用されているか等大学のありのままの姿であろう。近年各大学は、HPを充実するなど情報公開に積極的であるが、国立大学を一覧しようとするならばかなり骨の折れることである。これを実現するためには、国立大学が情報を提供する今回の国立大学法人評価こそ、絶好の機会ではないだろうか。

そこで、機構に要求したいことは、国立大学が提出する全データを「大学情報データベース」で公開することである。機構のQ&Aによれば、「学部・研究科等の現況調査表」は、「中期目標の達成状況報告書」とともに、教育研究評価に係る実績報告書の一部となるので、公表することとされているが、大学情報データベースについては、各国立大学法人で入力したデータを集計し、分布状況を図表で表し、各国立大学法人に提供するこ

ととしている。しかしながら、各大学はデータに基づいて現況報告や達成状況の報告をするのであって、そのデータを公開しないとするならば評価の在り方に一貫性を欠くと言えるのではないだろうか。どのようなデータについて分布状況を示すのか、今の段階では明らかではないが、全体の姿を国民に見せることも大事なことである。大学データベースが国民の税金によって構築されたことを考えるならば、評価に用いたデータを公開することもまた、機構の責務として当然のこととして帰結するのではないだろうか。また、評価プロセスと評価結果についても、個人情報に関わらない限り、できるだけデータを公開するよう望みたい。

[統計学の役割]

戦後、統計学が日本の社会、政治、裁判、医療といった様々な分野に大きな影響を与えてきたことは事実である。今、大学評価のさきがけに当たって統計学が果たす役割は、これまた大きなものがあると考えられる。もし、上に述べたデータが提供されれば、大学評価に対する様々なモデルの提案、データの信憑性、評価者の意思決定プロセスとその結果の相関、データ間の相関等々、さまざまな角度からの分析が可能である。大学評価に有効な指標の開発、データの収集整理の在り方、データの質の向上そのものにも寄与できるであろう。結果として、資源配分や大学評価制度そのものに影響を与えることになるかもしれないが、統計学は、評価の在り方を論ずるものではなく、与えられたデータ、事象から客観的に何が言えるのかを示すことである。

大学評価については、多様な考え方が存在しているのではないかというのが私見である。ランキング、レイテング、絶対評価などである。これまでもマスコミを中心として各種の大学評価が試みられてきたが、主観的な印象度であったり、一部のアンケート調査による単純な点数化であったり、その手法やデータの取り方には疑問なしとしないところである。

この国立大学法人評価は、一定期間を対象とし

て一斉に評価を行うことに意義があり、大学外の要因が平等に働いていることが重要である。統計学が科学的視点から大学評価に分析を与えること

は、大学の自己評価や評価機関による評価の向上になるばかりでなく、統計学自体の発展にもつながると考えるのは私だけであろうか。

5. 2008・2009年度評議員選挙結果

2008年6月19日(木)、統計情報研究開発センターにおいて、選挙管理委員2名(永井圭二、西埜晴久)により、2008・2009年度評議員選挙の開票が行われました。その結果、定員規定により、次の40名が選出されました。

会田雅人 伊藤彰彦 稲葉弘道 今井英幸
岩崎 学 牛澤賢二 大林千一 狩野 裕
川崎 茂 川崎能典 菊地 進 久保川達也
倉田博史 栗木 哲 桑原廣美 小西貞則
西郷 浩 佐藤 学 杉山高一 瀬尾 隆
高橋 一 竹村彰通 田中勝人 田村義保

椿 広計 富澤貞男 中野純司 浜砂敬郎
藤井良宜 藤越康祝 舟岡史雄 水田正弘
森 博美 矢島美寛 安田 聖 山下智志
山本 拓 美添泰人 若木宏文 渡辺美智子
(以上40名, 50音順)

なお、有権者1388名中、投票者数180名、投票用紙延べ記名数839、うち有効817、同無効22でした。

2008・2009年度評議員選挙管理委員
永井 圭二
西埜 晴久

6. 研究部会新設公募

統計学の研究活動を助成するため、日本統計学会が1954年に研究部会制度を設けて以来、これまでに多くの研究部会が誕生し、統計学の発展に寄与して参りました。この制度は、公募制をとり、原則として年1ないし2件が評議員会の承認を得て発足します。継続期間は2年間、助成額は1部会につき年間10万円で、部会設置期間終了時には、会員への研究成果の公表と評議員会への事務報告が義務付けられています。また、研究会の開催を本学会のホームページに掲載することになっています。

今年も研究部会を公募いたしますので、ふるってご応募ください。

締切日：2008年10月31日

応募先：

〒107-0062 東京都港区南青山6-3-9

大和ビル2階

(財)統計情報研究開発センター内

日本統計学会担当

Tel & Fax：03-5467-0483

E-mail：shom@jss.gr.jp

応募書類の書式などは応募先までお問い合わせください。採否は、11月に開催予定の評議員会にて審議の上、決定いたします。

なお、研究分科会(設置期間4年間)については随時募集しております。こちらにも積極的にご応募ください。研究分科会の趣旨等については会員名簿(2007年12月)の記載または学会ホームページをご参照ください。

7. 理事会議事録

●2006・2007年度 第7回理事会議事録

日 時：2008年5月10日(土) 12:00~15:00

場 所：統計数理研究所 会議室

出席者：北川源四郎会長、田中勝人理事長、大森

裕浩（会誌編集・和文），勝浦正樹（大会企画・プログラム），宮田敏（大会企画・プログラム），坂本亘（広報・会報），福地純一郎（広報・HP），高橋一（渉外・一般），小暮厚之（渉外・海外担当），田村義保（渉外・プロジェクト研究），川崎能典（庶務会計），黒住英司（庶務会計），倉田博史（庶務会計），井上潔司（大会事務局）

（以上14名，カッコ内は役割分担）

報告事項：

＜議題1＞会長からの報告

北川会長より，(1) 4/19の連合組織委員会で2008年度連合大会に関する詳細な事項が検討されたことが報告された。(2) 4/19の連合理事会において，2009年度連合大会の開催校が同志社大学に決まったこと，および，2010年度以降の開催地は連合理事会で決められることになったこと，(3) 事業検討委員会が社会的行事の開催を計画していること，(4) 2007年度の収支報告があったことなどについて報告された。

＜議題2＞理事長からの報告

田中理事長より，(1) 3/1に春季集会在開催されたことが報告された。今後の課題として，ポスターセッションの実施時間を工夫した方がよい，開催日程を工夫した方がよい，などの意見があった。(2) 学会賞各賞推薦の締め切りが4/25で，今後審査に移ることが報告された。(3) 12月に開催予定の台湾統計学会の3つの国際セッションに，日本統計学会から3人の発表者を派遣する必要があることが報告された。

＜議題3＞各理事からの報告

[会誌編集・欧文]

欠席の谷口担当理事に代わり，川崎理事より第38巻の編集状況が報告された。今年度は赤池特集号が発行されるので，特集号をNo.1，通常 No.1，2をNo.2，3として発行することが報告された。

[会誌編集・和文]

大森担当理事より，(1) 第37巻・シリーズJ・第2号が発行されたこと，(2) 第38巻の編集状況

が報告された。

[会報]

坂本担当理事より，会報No.135が発行されたことが報告された。

[HP]

福地担当理事より，(1) 英文HPの更新状況が報告された。(2) 和文誌の内容が学会HPで公表されていないことから，今後はtable and contents程度をアップロードすることとし，具体的な事項は福地理事が検討することとなった。

[渉外・海外担当]

小暮担当理事より，資料に基づき12月に開催される台湾統計学会の国際セッションに日本統計学会員3名を派遣する必要があることが説明され，候補者が選定された。

[渉外・プロジェクト研究]

田村担当理事より，(1) 横幹連合および科研費応募への呼びかけについて説明があった。(2) 科研費の統計科学のキーワードを変えた方がよいという指摘があった。(3) HPなどで学会員の論文評などを掲載してほしいとの要望があった。

[庶務]

川崎担当理事より，資料に基づき(1) 科研費(研究成果公開促進費(B))が採択されたこと，(2) 科研費(研究成果公開促進費(学術定期刊物))が採択されたこと，(3) 欧文誌第38巻の入札が行われ，落札業者が決定したこと，(4) 今年度開催される評議員選挙の準備状況，(5) 学会賞各賞の推薦状況，(6) 日本経済学会連合評議員として西郷浩，坂野慎哉両会員が選出されたこと，および同連合より英文年報の執筆が依頼され，西郷，坂野両会員に執筆を依頼して承諾を得ていることが報告された。

[大会企画]

勝浦担当理事より，資料に基づき2008年度連合大会の第2回プログラム委員会の内容とその後の経過について説明があった。

[大会運営]

欠席の橋本担当理事に代わり，川崎理事より資料に基づいて(1) 連合大会開催会場の下見を行

ったこと、(2) 連合大会での業務委託の契約をシンフォニカと再契約したこと、(3) 連合大会のポスターの準備状況、(4) 連合大会の事前受付システムについて報告があった。

＜議題4＞その他

- (1) 川崎理事より、HPの更新が遅れがちであるという指摘があり、意見が交換された。
- (2) 川崎理事より、賛助会員への入会申し込みがあったことが報告された。

審議事項：

＜議題5＞2007年度事業報告案・決算案の準備について

川崎理事より、資料に基づいて2007年度事業報告案・決算案の第1案が提示・説明され、検討が行われた。

＜議題6＞2008年度事業計画案・予算案の準備について

倉田理事より、資料に基づいて2008年度事業計画案・予算案の第1案が提示・説明され、検討が行われた。

＜議題7＞JSTによる過去の学会誌のアーカイブ化について

黒住理事より、資料に基づいてJST（科学技術振興機構）による過去の学会誌のアーカイブ化に関して具体的な作業の準備が整ったことが報告され、覚え書きの取り交わしなど、具体的な作業に移ることが承認された。

＜議題8＞後援名義使用承認申請と協賛依頼について

川崎理事より、資料に基づいて「第54回全国統計教育研究大会」の後援名義使用承認申請が提出されていることが説明され、承認された。また、田中理事長より、資料に基づいて「2009 ISM Asia-Pacific Regional Meeting」への協賛を依頼されていることが説明され、承認された。

＜議題9＞入退会者の承認について

川崎理事より、回収資料により入退会者について説明があり、承認された。

＜議題10＞その他

次回理事会は7/12（土）に開催することが決められた。

8. JJSS欧文誌・赤池記念特集号の発行について

欧文誌編集委員長 谷口 正信（早稲田大学）

本会報がお手元に着く頃と前後して、会員のみなさまのお手元には会誌（欧文誌）の第38巻1号と2号が配送される予定です。そのうち1号は、当学会の第19代会長も務められた赤池弘次会員（統計数理研究所元所長，同名誉教授，総合研究大学大学院名誉教授）が、2006年度の京都賞を受賞されたことを記念する特集号（Celebration Volume for Akaike）となっております。この特集号の増刊に伴い、欧文誌第38巻は3号構成となりまして、通常での1号に相当するものが2号に、12月発行予定の例年という2号が3号となりますので、ここにお知らせします。

ご存知の通り、赤池博士によって提唱された赤池情報量規準（AIC）は、従来統計的検定論の枠

で行われてきたモデル選択に新しいパラダイムを生み、応用分野は工学，地球科学，から医学・生体工学，経済，ファイナンス等，無限に拡大してきており，また，情報量規準の理論的な展開においても，いまだに種々の流れを生みつつあります。まさにAICは，この半世紀，世界の統計科学において，データに基づく統計学における最も重要な貢献のひとつであると確信しております。

この赤池博士の偉業を記念して，上述の特集号のほかに，今秋開催の科研費シンポジウムで「赤池記念セッション」を設けておりますので，会員各位のご参加よろしく申し上げます。このシンポジウムに関しましては，本会報内の「研究集会案内」にもご案内しておりますが，詳細は以

下のURLをご覧ください。

[http://www.taniguchi.sci.waseda.ac.jp/
2008sympo.doc](http://www.taniguchi.sci.waseda.ac.jp/2008sympo.doc)

最後に赤池博士のご健勝と、本学会の発展のため、さらなるビッグな国際賞の受賞にいたられますことを、日本統計学会の一会員としてご祈念申し上げます次第です。

9. 研究集会案内

●『統計・計量経済京都シンポジウム』

基盤研究 (A)「モーメント条件に基づくセミパラメトリック計量経済分析の理論と応用」研究代表者：西山慶彦 (京都大学), 基盤研究 (A)「統計科学における数理的手法の理論と応用」研究代表者：谷口正信 (早稲田大学) による。

日程：平成20年11月6日(木)午後～8日(土)

会場：京都大学芝蘭会館別館

(百万遍より徒歩5分)

([http://www.shirankai.or.jp/facilities/
guide/index.html](http://www.shirankai.or.jp/facilities/guide/index.html))

開催責任者：西山 慶彦 (京大), 谷口 正信 (早大), 小方 浩明 (早大)

内容・目的：広く数理統計学, 計量経済学に関する国際研究集会を開催します。主として, 時系列解析, パネルモデル分析, ノンパラメトリック, セミパラメトリック法といったトピックを扱った論文について, 招待講演, 一般公演を合わせて20前後の講演を予定しています。海外からはベルギー, イタリア, アメリカ, イギリス, 韓国等から10名程の講演者を招待しています。理論研究, 実証研究問わず先端的な研究報告を募集します。また赤池弘次博士の京都賞受賞記念セッションも企画する予定です。講演は原則として英語でお願いします。詳細はインターネット上の下記ファイル

[http://www.taniguchi.sci.waseda.ac.jp/
2008sympo.doc](http://www.taniguchi.sci.waseda.ac.jp/2008sympo.doc)

をご覧ください。

●第11回情報論的学習理論ワークショップ

(略称：IBIS2008)〔日本統計学会協賛〕

主催：電子情報通信学会情報論的学習理論時
限研究専門委員会

文部科学省科研費特定領域研究「情報統計力学の深化と展開」

開催日程：2008年10月29日(水)～31日(金)

開催場所：仙台国際センター

(宮城県仙台市青葉区)

会議詳細公開Webpage：

<http://ibis2008.bayesnet.org/>

開催趣旨：

インターネットを介した情報の国際共有が当たり前になった現在, 機械学習やデータマイニングの研究分野は多様化しています。このような背景のもと, 研究成果にある種の「完全性」を求める傾向が強まってきました。例えば, せっかく優れた学習理論を作ったとしても, それだけでは論文は採録されず, 優れたストーリー, 優れたアルゴリズム, 更には, 優れた応用例までもが求められるようになってきています。逆に, 優れた応用研究を行なったとしても, 背後に適切な理論がないとその成果が認められない傾向もあります。「完全」な研究を行うためには,

- 研究分野全体の発展の歴史的経緯を正確に把握する
- 提案手法の有効性を理論的に保証するための高度な数学能力を身につけている
- 大規模なシミュレーションを行なえるプログラミング能力を持つ
- 発展の著しい応用分野の最新の研究課題に関する知識・経験を有する

ことが必要となります。これら全てを網羅することは明らかに一人の研究者の能力を超越しています。従いまして, よい研究を行うためにはよい研究パートナーを見つけることが重要になります。今年で第11回目を迎えるIBIS2008は, これまでと

は少し趣向を変え、様々な研究者と気軽にディスカッションが出来るワークショップにしたいと思っています。多くの方にIBIS2008にご参加いただき、組織の垣根を越えたすばらしい研究パートナーを見つけ、今後の皆様の研究の更なる発展につなげていただければと実行委員一同、切に願っております。

対象分野：機械学習やデータマイニングに関する理論および応用研究。

一般講演発表概要：

採択された論文は3時間程度のポスター発表を行なう。紙の論文集は発行しない。希望者には、IBIS2008のウェブサイトから各自のテクニカルレポートなどへのリンクを提供。

企画セッション概要：

- 「複雑ネットワークと機械学習」
オーガナイザー：鹿島久嗣（IBM）、加藤毅（お茶大）、猪口明博（阪大）、小山聡（京大）
講演者：増田直紀（東大）、加藤幹生（mixi）、山田武士（NTT）
- 「学習と制御：ロボットへの応用」
オーガナイザー：森本淳（ATR）、矢入健久（東大）
講演者：藤本健治（名大）、内部英治（沖縄先端大）、森本淳（ATR）、矢入健久（東大）、稲邑哲也（NII）
- 「ノンパラメトリックベイズ」
オーガナイザー：持橋大地（NTT）、中田貴之（NEC）、大羽成征（京大）
講演者：上田修功（NTT）、持橋大地（NTT）、栗原賢一（Google）他

- 「自然言語処理」
オーガナイザー：持橋大地（NTT）、村山立人（NTT）
講演者：松本裕治（奈良先端大）
- 「最適化と機械学習」
オーガナイザー：金森敬文（名大）、村山立人（NTT）
講演者：脇隼人（電通大）、北原知就（東工大）、岡本吉央（東工大）
- 「密度比推定の手法と応用」
オーガナイザー：杉山将（東工大）
講演者：杉山将（東工大）

スケジュール：

- 一般講演投稿締切 9月26日（金）
- 採択決定通知 10月10日（金）
- ワークショップ開催日
10月29日（水）～31日（金）

IBIS2008実行委員会：

実行委員長：田中和之（東北大）
副実行委員長：樺島祥介（東工大）
プログラム委員長：杉山将（東工大）
副プログラム委員長：鹿島久嗣（IBM）
プログラム委員：
井手剛（IBM）、猪口明博（阪大）、大羽成征（京大）、小山聡（京大）、加藤毅（お茶大）、金森敬文（名大）、瀬々潤（お茶大）、中島伸一（NIKON）、中田貴之（NEC）、村山立人（NTT）、持橋大地（NTT）、森本淳（ATR）、矢入健久（東大）

参加費：無料。

問合せ先：IBIS2008事務局

(support@ibis2008.bayesnet.org)

10. 公募情報

●**安倍フェローシップ個人研究プロジェクト募集**
国際交流基金日米センターは米国社会科学研究所評議会（SSRC）及び米国学術団体評議会（ACLS）と共同で、安倍フェローシップ個人研究プロジェクトを公募します。

安倍フェローシップは個人の調査研究プロジェクトに対する研究支援制度です。その目的は、社会科学と人文科学の分野における高度な政策指向型研究を促進し、日米の研究者間の新しい協働関係とネットワークを形成すること、また、これら

研究者から比較研究あるいは国境を越える視点に立った研究への取り組みを引き出していくことです。学者、研究者、また学界以外の分野（ジャーナリズム・法曹界等）の専門家からの申請を歓迎します。

申請資格は日米いずれかに研究の拠点をもち、博士号ないしは専門分野での同等の経験を有していることです。募集人員は15名前後。奨学金支給額は定額方式ではなく申請された研究プロジェクトによって個々に決定されますが、一般に研究費、渡航費、滞在費、および給与補償分が支給されます。支給期間は最短3ヶ月、最長12ヶ月間です。応募はSSRCのホームページにてオンラインでのみ受付けています。締め切りは9月1日です。募集要項等の詳細については

<http://www.abefellowship.info>
をご覧ください。

また、プログラム内容およびオンライン申請についての疑問点にお答えする安倍フェローシップ申請説明会を東京で2008年7月30日（水）、京都で8月4日（月）に開催いたします。当日は過去の安倍フェローを講師として迎える予定です。詳細はssrcABE@gol.comまでメールでお問い合わせ下さい。

SSRC安倍フェローシップ・プログラム東京事務所
〒160-0004 東京都新宿区四谷4-4-1
国際交流基金日米センター内
Tel : (03) 5369-6085 Fax : (03) 5369-6042
Email : ssrcABE@gol.com

●岡山大学「異分野融合先端研究コア」テニュア・トラック教員公募

岡山大学は10-20年後に主要な研究領域となるべき異分野融合型革新研究領域の創出を目指し、

若手教員を自立させ、研究に専念させる組織「異分野融合先端研究コア」を発足させます。今回その中心的な役割をはたす教員として、若手教員をテニュア・トラック教員として公募します。

公募人員：11人（原則として助教、経験、業績により准教授）。自然科学、環境学領域で自己の修得した分野を基盤とし、異分野を融合させ新しい先端研究を立ち上げる意欲のある方。

給与：年俸制。

研究費：初年度設備費および消耗品費として500万円—1000万円程度、次年度から毎年200万円程度。

着任予定日：平成20年11月1日以後。

提出書類：

- [1] 履歴書（競争的資金獲得状況を含む）
- [2] 異分野融合研究の提案（A4紙4-6枚に提案の内容、概念的な新しさ、重要性、実現可能性、世界からみた位置づけ、英文要旨の順に記載。別紙評価基準（請求のこと）を参考にすること）
- [3] 過去の業績の説明
- [4] 業績リスト
- [5] 推薦書2通（指導教員および関連分野の研究者からの推薦書）。

応募締切：平成20年9月19日。

書類送り先など：以下のアドレスに公募の詳しい資料をご請求下さい。

aneyamak@cc.okayama-u.ac.jp

なお、統計学に特に関連する異分野融合領域及びメンター教員候補者は以下の通りです。

医用数理科学

(Mathematical science for medicine)

栗原考次（環境学研究科）専門：環境統計学

(Statistics for the Environment and Health)

11. 新刊紹介

本会会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を掲載します。

●丸山 健夫 著「ナイチンゲールは統計学者だった！ —統計の人物と歴史の物語—」日科技連

出版社（税込1,890円）2008年6月

150年前のヴィクトリア女王へのナイチンゲールの報告書がいま甦る！ ナイチンゲールは統計学者だった！ 英国の陸軍兵士たちへの熱い想いが、

彼女を統計学のプレゼンテーションの世界へと導く。ナイチンゲールと統計学の関係をはじめ、19世紀の統計学を創った日本と西洋の人々の物語。

12. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2008年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。また便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上、こちらもご活用下さい。

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに、氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒107-0062 東京都港区南青山6-3-9 大和ビル2F
財団法人統計情報研究開発センター内
日本統計学会係
Tel & Fax : 03-5467-0483
E-mail : shom@jss.gr.jp

訃報

次の方が逝去されました。謹んで追悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

尾崎 巖 会員

退会承認

赤瀬彰吾, 石井恵一, 入江基浩, 岩崎倫久, 岩田暁一, 川崎秀二, 岸智子, 清川雪彦, 楠恭雄, 清水行雄, 鈴木淑通, 多賀保志, 田村健, 千葉弘, 鶴和也, 中川哲男, 那須郁夫, 長谷川功, 林浩二, 廣部恒忠, 山口直人, 山野光信, 吉岡完治, 鷺津明由 (敬称略)

現在の会員数 (2008年7月12日)

名誉会員	20名
正会員	1,433名
学生会員	42名
総計	1,495名
賛助会員	18法人
団体会員	4団体

13. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

● 来日統計学者の紹介

訪問者の略歴、滞在期間、滞在先、世話人などをお知らせください。

● 博士論文・修士論文の紹介

(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年

月をお知らせください。

● 求人案内 (教員公募など)

● 研究集会案内

● 新刊紹介

著者名, 書名, 出版社, 税込価格, 出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし、主観的な表現は避けてください。

できるだけe-mailによる投稿、もしくは、文書

ファイル（テキスト形式）の送付をお願い致します。

原稿送付先：

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

学習院大学経済学部

福地 純一郎 宛

Tel：03-5992-2085

Fax：03-5992-1007

E-mail：koho@jss.gr.jp

（統計学会広報連絡用e-mailアドレス）

- ・統計学会ホームページURL：
<http://www.jss.gr.jp/>
- ・統計関連学会ホームページURL：
<http://www.jfssa.jp/>
- ・75周年記念事業ホームページURL：
<http://www.math.chuo-u.ac.jp/~sugiyama/jss75>
- ・住所変更連絡用e-mailアドレス：
meibo@jss.gr.jp
- ・広報連絡用e-mailアドレス：
koho@jss.gr.jp
- ・その他連絡用e-mailアドレス：
shom@jss.gr.jp